



○入院している病院の医療者をお願いしたいこと

- 退院後の治療をスムーズに進めるのに関係者の共通理解が必要なときには、連携会議等を学校と協力して開く。

退院後の治療がスムーズに行えるように、また本人が元の生活にできるだけ早く戻れるように、本人はどんなことに気を付けて生活したらよいのか、また支援者はどんなことに配慮していったらよいのか、さらに、支援を行う上でどの機関が何を担っていくのかといった役割分担の明確化等、関係者が一堂に会して共通理解することは大切です。そのため、院内学級や原籍校の教員と協力して共通理解をする連携会議等を開くとよいです。

連携会議を開く意義は共通理解をはかるだけではありません。関係者が一堂に会しお互いの顔を知っておくことは、その後の支援で必要な時にお互いに連絡が取り易くなります。さらに、本人や保護者も参加している会議でもあるので、今後困った時のお互いの連絡方法等を確認しておくこともできます。

- 本人や保護者、原籍校の教員が学級の仲間へ病気について説明する時の支援をする。
本人や保護者、原籍校の担任が病気について学級の仲間等に自ら伝えたいと考えている場合には、病気についてどのように伝えたらよいのか、日常生活で何故、何を、どのように支援したらよいのか、どんなことならできるのかなどを、本人や保護者、教員が具体的に学級の仲間等に説明できるよう支援してください。その際、言葉だけでなく図や写真、またはフローチャート式の図解等、児童生徒にも分かり易い資料等があれば、提供できるとよいです。
- 本人や原籍校の教員に対して、退院後の病気からくる悩みについての相談先を明確にしておく。
本人や保護者、原籍校の教員にとって、退院後も治療や学校生活での病気からくる悩み等がいろいろと出てくるものです。そんな時に、医療者に気軽に相談にのってもらえると大変心強いものです。
本人や保護者、原籍校の教員が、そうした相談をいつ、誰に、どのようにしたらよいのか、病院内の連絡先や方法を退院前に本人や保護者、原籍校の教員に伝えておくるとよいです。また、時として相談内容が同じような内容の繰り返しになるかもしれませんが、病気への不安軽減や日常生活への前向きな姿勢を応援するためにも、繰り返し丁寧に説明してあげるとよいです。